

国際社会開発専攻 博士課程（通信教育） ●授与学位／博士（開発学）

専攻の概要

「福祉社会」の形成に、国際社会開発からアプローチする手がかりは、制度的・社会的バリアを取り除くことを通じて、貧しい大衆・排除されていた人々も含めて諸個人が共同的な生活能力を開花させ、市場や行政を利用し、変容させながら自らの福祉を向上させる、そうしたことを可能とする地域社会の変化への政策的支援にあります。そのためには、現場と理論を往復しつつ、洞察を磨くことが求められています。また、人々主体の開発に関しては、地域文化、社会的包摂、環境など多様な視点から見ていくことも求められています。

本専攻では、通信教育の特質を十二分に生かし、ICTの発展により広がったオンライン形式等も積極的に活用して、世界各地に住む開発実践者たちに、理論的考察を行う場を創出する一方、彼ら彼女らが、多様な現場で、自主的に研究をすすめることを可能としています。これらを通じて、開発学的方法論を自ら発展させつつ、様々な実践経験を論理化し、普遍化できる高度専門職業人もしくは研究者の育成を目指しています。

国際社会開発特別研究（研究指導科目） 担当教員

開講および担当教員は2026年度の実績であり、今後変更となる場合があります。

研究テーマ	指導教員	研究テーマ	指導教員
開発と文化	小國 和子 教授	ガバナンスと開発	砂原 美佳 准教授
障害と開発	久野 研二 教授	地域マネジメント	吉村 輝彦 教授
情報と開発	佐藤 慎一 教授		

主な博士学位論文テーマ

- 当事者団体とのパートナーシップによる包摂型援助のあり方に関する研究：ネパールにおける人身売買サバイバー団体の成長過程の事例から
- 南アジアにおける包括的栄養プログラム再建のための理論的・実証的検討 –ネパール農村女性の食生活調査を基に–
- 森林管理制度の展開に関する比較研究：日本・タイ・カザフスタンの歴史的考察から
- タンザニア国保健分野に於ける5S-KAIZEN-TQM手法の有用性と普及方法に関する研究
- 政府開発援助機関によるフードバリューチェーン分析と介入に関する研究 –ミャンマーを生産地とした日本向け冷凍野菜事業の事例から–
- 思春期セクシャル／リプロダクティブヘルスにおける看護職役割の課題 –ネパール連邦民主共和国・バグマティ州の思春期若者と看護師を事例として–
- 低中所得国における情報通信技術の活用による保健医療人材の全国的な現任研修の運用体制の強化 –研修の機会拡大と研修効果の発現を促す関係機関の連携–

授業科目について

以下は2026年度の実績で、いずれも選択科目です。なお、専攻により選択できる科目が異なります。

福祉社会開発研究方法論特講	オンデマンド講義	2単位
福祉社会開発政策・実践論特講	「大学院特別公開セミナー」による単位認定科目	2単位
先端老年社会科学講座	対面・オンライン併用開講 ※国立長寿医療研究センター連携科目	1単位
統計解析講座	対面開講 ※国立長寿医療研究センター連携科目	1単位

2 年 次

9 月	10 月	11 月～12 月	2 月	5 月
小論文提出 ※社会福祉学専攻のみ	研究科合同論文構想発表会	博士論文 〔執筆資格審査〕 〈秋期〉申請期限 ※1	年次研究報告書提出	博士論文〔執筆資格審査〕 〈春期〉申請期限 ※未申請者対象 博士論文執筆計画書提出

※1 ●学位論文に関連した業績（国内外の査読制度を有する学術専門誌等に掲載された1編以上の論文）があることが、申請要件の1つとなります。
●同審査は、5月と11月～12月の年2回申請受付をおこないます。2年次の後期以降から申請が可能となります。

※2 ●執筆資格審査に合格していること、学位論文に関する
●同審査は、4月と9月の年2回申請受付をおこない